

むさしのジュニア 2020 通信

Vol.3

武蔵野市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会を立ち上げ、「むさしのジュニア特派員」という取り組みを行っています。

市内の小・中・高校生が集まり、スポーツイベントを中心に取材を行い、広報誌を作成しています。特派員たちが自分の言葉で書いた記事からは、東京2020大会等へのワクワクした気持ちが伝わってきます。

今回のVol.3は第一期と第二期のメンバーで作成しました。

2019年はラグビーの年！

武蔵野市でも大盛況！多くの選手にインタビューを行うことができました。



第一期と第二期メンバーのジュニア特派員が
楽しいニュースを皆様にお届けします！

へんしゅうちょう

編集長あいさつ

第二期の武蔵野ジュニア特派員編集長の讀井彩夏です。私たちは今年の7月から、日本で行われるスポーツイベントについて、より多くの人に知ってもらえるよう取材し、記事を書くという活動をしています。今年はラグビーW杯が日本で開催され、素晴らしい盛り上がりを見せてくれました。また東京2020オリンピック・パラリンピックが来年に迫っており、楽しみがたくさん詰まっている現状です。情報収集のしがいがあり、興味深い内容が盛り沢山の記事が作成できたと思います。小学生から高校生という、幅広い年齢層の私たちジュニア特派員によって、精一杯調査し集めた情報の集大成がこの武蔵野ジュニア2020通信です。今話題となっている現場へ私たちは足を運び、インタビューや写真撮影を行いました。その中で多様な価値観を持つ人と交流し、更に対話スキル、カメラの使い方など、取材に関する多くの能力を学ぶという素晴らしい体験ができました。習得した新しいスキルを最大限に生かし、私達ジュニア特派員はこの新聞を作り上げました。この新聞を手にとって読んで下さったみなさんにとって、スポーツイベントについて興味を持つきっかけとなれば幸いです。そしてこれを通して、今後スポーツイベントでの地域全体としての活動が、今以上に活性化することを願います。

ジュニア特派員 編集長

讀井 彩夏



Sports for All 吉祥寺×ラグビー

6月2日(日) 吉祥寺平和通り 他

ゲスト 廣瀬 俊朗 さん

吉祥寺の街中にラグビー空間が出現！道の真ん中に人工芝によるラグビーコートを設置し、ラグビー体験が行われました。体験の他にも、パネルスタンプラリーや地元商店会と連携した取り組みも行い、多くの参加者で賑わうイベントとなりました。盛り上がりの中、ジュニア特派員はラグビーを参加者とともに体験し、その後、当日ゲストで登場した武蔵野市内で活動するラグビー選手にインタビューも行いました。

ラグビー選手たちの絆

私は、ラグビー体験でスクラムなどの協力して行う技での選手たちの絆を見てきました。

私が体験してみて思ったことの一つ目は、スクラムについてです。スクラムは、相手のチームと自分たちのチームで押し合ってやるので1t以上もの重さが体にかかります。

また、強く押し返すためには自分のチームと同じ方向に力を集中させなければいけないので、これはとても協力が必要です。

二つ目は、リフトアップという技です。この技は、前後一人ずついて、中心の人が二人に持ち上げてもらうのですが、これは二人で息を合わせて上げないと、落ちてしまうので、これもまた、協力しなければいけません。なのでラグビーは、絆がなければできない競技だと思いました。

(取材・文) 高坂 ころこ

よこかわむさしの
横河武蔵野アトラス
ターズの選手にリフ
トアップしてもら
う桜井特派員。子供
だけでなく、大人も
軽々と持ち上げて
いました



横河武蔵野アトラスターズ、アルテミ・スターズにインタビュー



インタビューに答えてくれた横河武蔵野アトラスターズとアルテミ・スターズの選手

武蔵野市で活動する社会人ラグビーチーム、男子の「横河武蔵野アトラスターズ」と女子の「横河武蔵野アルテミ・スターズ」の選手の皆さんにお話を聞きました。

Q1. 練習時間は週にどれくらいですか？

A1. (アトラスターズ) 社会人チームなので仕事の後に練習しています。週3日1時間半ずつくらいです。(アルテミ・スターズ) 同じく週5日1時間半ずつくらいですね。

Q2. 大きく強い体を作るため、食事で気をつけていることはありますか？

A2. 炭水化物やたんぱく質、鉄分などをしっかり取るようにしています。

Q3. タックルでぶつくと痛くないですか？

A3. もちろん痛いですが、チームのため仲間のためなので頑張れます。

(取材・文) 桜井 裕朗

コラム1

ジュニア特派員 近田 悠之介

ノーサイドの精神について



ラグビーのノーサイドの精神とは、試合終了の笛がなったら敵味方関係なくお互いを讃えあうことです。でも殴られたり倒されたり負けてくやしいのに、本当に相手を讃えられるのでしょうか。そこでノーサイドの精神が本当にあるのかどうか、ラグビーワールドカップの試合を見てみました。すると、試合中は激しく戦っていた選手たちが、試合後は固く握手し抱きしめあってお互いの勇姿を讃えあっていました。試合中は敵同士でも、試合後はラグビーを愛する仲間同士になっていました。僕はとても感動しました。そんな素晴らしいノーサイドの精神があるラグビーがもっと好きになりました。

コラム2

ジュニア特派員 齋藤 倅羽

聖火リレーランナーがやってくる



2020年7月17日に武蔵野陸上競技場で聖火リレーのセレブレーションが開かれます。セレブレーションは毎日の最終地点で聖火の到着を祝う式典です。ランナーが持つ聖火リレートーチは日本人に親しまれている桜がモチーフになっていて、つなぎ目のないひとつなぎの形になっています。素材の一部には東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材が再利用されています。ランナーのユニフォームにはペットボトルをリサイクルした素材が使われています。日本の伝統と技術力を手に希望の道をつなぐランナーが武蔵野市に来るのが楽しみです。

コラム3

ジュニア特派員 辻田 裕樹

アンチドーピングについて



みなさんは、ドーピングという言葉を知っていますか？ドーピングとは、体の能力をあげるために禁止されている薬を使うことです。このような薬を使うと、スポーツ選手の場合、競技に出られなくなります。みんな競技に参加したくて練習を頑張っているのにも関わらず、このようなことは色々なところで起きています。例えば、2016年パラリンピックの時では、ロシアが国家ぐるみで選手のドーピングを隠していたことにより、ロシアの選手は全員出られなくなりました。そのロシアのチームにも競技に出たかった人もいるのに、出られないなんて残念だと思いました。出たい人がみな競技に参加できるようになるために、ドーピングを防いでいくことが大事だと思います。

Sports for All バスケットボール

6月16日(土) 武蔵野総合体育館

ゲスト 折茂 武彦さん(5人制)、吉祥寺 BELE の皆さん(3人制)、伊藤 優也さん(車いす)

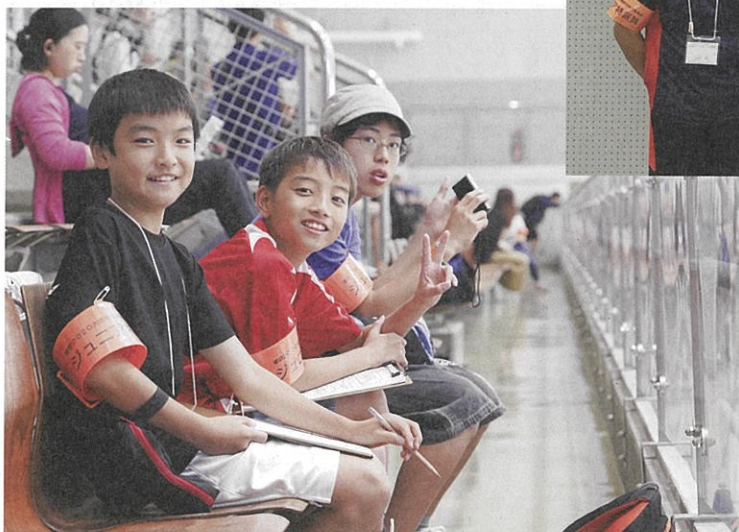
5人制・3人制・車いすの3種類のバスケットボールの選手がゲストで登場した Sports for All バスケットボール。デモンストレーションでは選手によるフリースロー対決も見学し、それぞれのバスケットボールの違いや魅力取材しました。今回のイベントがジュニア特派員の一期メンバーで行う最後の取材。これまでの経験が表れた堂々とした取材を行っていました。



早く取材に応じてくださった
吉祥寺 BELE の皆さんと。



左から福田侑介選手、佐々木隼選手、
小辻一輝選手ありがとうございました。



目の前でプロの技を見て
興奮気味の特派員たち。
皆いい笑顔！

おどろきばかりのデモンストレーション

6月16日の Sports for All バスケットボールのデモンストレーションですごくと思ったところがあります。それは、車いすバスケットでプレーする伊藤選手です。デモンストレーションのなかで12秒の間にフリースロー、3ポイントラインからのシュートで、立って投げる選手より低い高さからゴールに届かせないといけなのに、シュートがしっかりリングに届いていました。また、低い位置から投げるため腕が疲れるのですが何本投げてでも全くぶれずにリングに届いてすごいと思いました。僕は、選手たちが努力をやめずに練習を続けてきたところが心に残りました。

(取材・文) 高根澤 真輝



折茂 武彦選手 インタビュー

B.LEAGUE 最年長プレーヤー、レバンガ北海道の折茂 武彦選手にインタビューを行いました。
(折茂選手は9月30日に今季限りでの引退を発表しました。)



Q1. チームでのポジションは？

A1. 「シューティングガード」というゴールから離れた所から積極的にポイントを取りに行くポジションです。

Q2. バスケットで楽しさを感じるのは？

A2. チーム全員で何かを達成できた時ですね。

Q3. チームの雰囲気はどんなですか？

A3. みんなでしっかりコミュニケーションをとっているの、プレー中も安心して仲間にかかれます。バスケットはチームスポーツなので助け合うことが一番大切なんです。

折茂選手は、49歳で現役最年長のプレーヤーにもかかわらず、とてもクールでかっこ良かったです。

(取材・文) 桜井 裕雨

Q1. バスケットをはじめたきっかけは何ですか？

A1. 兄の影響で始めました。

Q2. 3ポイントシュートのコツを教えてください。

A2. 何百万本とたくさんシュート練習をすることです。

Q3. 試合中に気を付けることは何ですか？

A3. 失敗を気にしないで次につなげることです。

とても背が高く、ひきしまった体でかっこいい選手でした。

3ポイントシュートを決めようとする時の表情が心に残りました。

今シーズン、最後まで頑張って下さい。応援しています。

(取材・文) 宮川 竜登



インタビューの様子。



インタビュー後に特派員一人一人と握手をしてくれました。

ゲストトークでの会話

6月16日バスケットボール選手のゲストトークがありました。ゲストトークには、折茂武彦選手、伊藤優也選手、根木大明選手の3人にお話を聞かせていただきました。

はじめに司会者が選手の紹介をしました。

次にバスケの魅力について質問しました。5人制バスケの折茂選手は「全ての人が出来るスポーツ」、車いすバスケの伊藤選手は「車いすバスケもひとつのスポーツ」、3人制バスケの根木選手は「スピーディなところがいい」とそれぞれバスケの魅力を語ってくれました。バスケの魅力に注目しながら、応援しましょう！

ゲストトークに出演した伊藤優也選手（左）と
吉祥寺 BELE の根木大明選手（右）



(取材・文) 道川 結月

市内で活動する3人制バスケットボールチーム
吉祥寺BELEの選手



5人制バスケットボールよりコートが狭いの1人1人が動くスペースが広いと聞いて意外でした。選手の皆さんが真剣に話す姿を見て目標に向かって頑張ることは素敵だと感じました。

(取材・文) 宮崎 悠里

伊藤優也選手へのインタビュー

Q1. バスケを始めたきっかけはなんですか？

A1. 6年前、けがをしてリハビリの時に車いすでバスケをしました。そのときに楽しい、もっとうまくなりたいと思ったからです。

Q2. 車いすは何台持っていますか？

A2. バスケ用に2台、家の中用に1台、外用に1台、合計4台持っています。

Q3. 週に何回、一日の練習時間はどのくらいですか？

A3. だいたい体育館で週に4～5回、4時間くらいしています。

重たいボールを上にあげるなどの様々なトレーニングをして、車いすに乗った状態でシュートが入っていてすごいなと思いました。

車いすバスケットボールの伊藤優也選手と
ジュニア特派員



(取材・文) 橋口 若菜

中学生向けの
バスケットボールクリニックの様子



みんなで楽しくバスケットボール！！

中学生向けのバスケットボールクリニックでは、吉祥寺 BELE の選手が教えていました。最初のウォーミングアップでは、シュートの練習をしていました。

ウォーミングアップが終わり、水飲みの休憩のあと、2グループに分かれて、それぞれドリブルとシュートの練習をし、その後練習内容を交代していました。練習中は、BELE の選手と中学生が楽しくバスケットボールをしながら注意点などを話し合っていました。参加していた人たちは練習中、お互いに仲良く話していました。

(取材・文) 石垣 龍

バスケットボールクリニック

私は、バスケットボールクリニックを見学してきました。バスケットボールクリニックでは、現役最年長の折茂武彦選手や、3人制のプロバスケットボール選手の皆さんが教えていました。私が見学したのは、高校生や大人の方たちが練習しているほうで、大人も高校生も選手の皆さんが教えているときに、とても熱心に聞いていました。

高校生たちがアドバイスをもとに練習していくにつれて、シュートなどがどんどん決まるようになり、みんな生き生きとしてきました。教えていただいたことをどんどん吸収して上達していくみんなをみて、尊敬するとともに、私もバスケットボールをやってみたくなりました。

(取材・文) 高坂 ころろ



高校生以上向けの
バスケットボールクリニックの様子

コラム4

ジュニア特派員 森 麻希

オリンピックの新種目、スケートボードについて

東京2020オリンピックから正式種目になるスケートボードですが、その起源は、1940年代のアメリカ西海岸で木の板に鉄の車輪を付けて滑った遊びが始まりとされています。今のようなスケートボードの形になって、世界中に広まったのは1980年代以降で、比較的新しいスポーツです。

オリンピックで行われる種目は、ストリートとパークです。ストリートは、街にある階段や手すり、縁石やベンチ、壁や坂道などを配置したコースで技を競い合います。パークは、深いお椀やボウルをいくつも組み合わせたようなコースで、スノーボードのハーフパイプのように空中で技を決める競技です。日本選手の活躍が期待されます。



ロシア代表チームキャンプ

ラグビーワールドカップ2019™で、武蔵野市が公認チームキャンプ地を務めたロシア代表チームが、9月17日～22日の6日間、武蔵野陸上競技場などで練習を行いました。セキュリティが厳しい中、今回は特別に練習見学と交流が実現し、武蔵野ラグビースクールの子供たちとジュニア特派員が交流に参加しました。

チームキャンプに関わった方に、キャンプのために整備された芝生の秘密も伺いました。

ユニフォームとしおりの交換

2019年9月22日、武蔵野陸上競技場でロシアチームと武蔵野市の交流会が開かれました。ロシアチームのサイン入りユニフォームと武蔵野市の幼稚園児や小学生などが描いた絵のしおりの受け渡しが行われました。ユニフォームは武蔵野市長が受け取り、しおりはジュニア特派員が代表となってロシアチームに渡しました。ロシアチームはうれしそうでした。ユニフォームは市内の施設や広報誌などで紹介の予定だそうです。これからのロシアチームの活躍が楽しみです。

(取材・文) 齋藤 倅羽

ロシア代表からもらった
サイン入りユニフォーム



強くてやさしいロシア代表

みなさんはラグビーワールドカップ2019™を観ましたか？私たちはラグビーロシア代表の選手たちに会いに行きました。交流では、ロシア代表チームからは盾が贈られ、武蔵野ラグビースクールの子どもたちは、応援メッセージの入った国旗を贈りました。選手と握手をした人は、体や手の大きさ、力強さに驚いていました。記念写真の撮影時には選手が小さい子どもを抱っこしたり、気さくに話しかけてくれたりと、試合では見られない優しさを見ることができました。

(取材・文) 北 みれい



メッセージを書いてプレゼントしたロシア国旗とヘッドコーチ

ロシアチームの体と練習

私たちは、ロシアチームの公認チームキャンプ地に行って、ロシアチームの練習を見ました。ロシアチームの人達は、日本人と体格差がありました。体はごつくて、びっくりしました。練習の最初は、準備体操でした。輪になって、私達にはわからない動きでした。次は、メイン練習でした。二つに分かれていて、片方はゲーム形式で、もう片方は、リフトアップの練習でした。私は、この練習を見て、ラグビーに興味を持ちました。

(取材・文) 石橋 壮太

陸上競技場の芝生について

Q1. 芝生は特別な芝生ですか？

A1. ラグビー選手は体重が通常の人より重く、競技中の動きも激しいので、傷つきにくく、傷ついてもなおやすいものを選んでいきます。

Q2. 芝生を管理している時はどんなことに気を付けていますか？

A2. 芝生はとても繊細で傷つきやすく、デリケートなので、芝生を傷つけないように優しく、愛情を持って接しています。また、芝生に引くラインは校庭に使う石灰ではなく、芝生がいたまさないような水をかけるととける白いペンキで引きます。

Q3. どうやって芝生をひろげたのですか？

A3. ラグビーの競技場はいつも使っている陸上競技場より大きいので、その分は1か月前から用意しました。まず、陸上トラックにシートを敷き、13mほどのロール状にまいた芝生のかたまりをぴったりととれにくいように敷きました。いつも使っている部分は毎日草刈りをします。刈ると根の細かい所まで育ちます。

しっかりと管理してくださる
方々のおかげで私たちが安全に
楽しく利用できるのだと思い、
芝生に接する時は感謝の気持ち
を持ちながら接しようと思いま
した。

(取材・文) 権藤 由衣



芝生の断面図を特別に
見せてもらいました！



ラグビーワールドカップ公認チームキャンプ地

Q1. ロシアチームのためにどんな準備をしましたか？

A1. 工事の調整やトレーニングに使う機械のセッティングや安全のため外から見えないように対応しました。

Q2. 大変だったことは何ですか？

A2. ラグビーワールドカップ2019™組織委員会と様々な面で調整することです。

Q3. サポートする際に気を付けていることはありますか？

A3. チームのスケジュールが遅れることなく、練習ができて、試合への準備をしっかりと行えるように気を付けています。

Q4. やってよかったと思うことはなんですか？

A4. キャンプ地として完成し、実際にロシア選手が練習に集中しているのを見たことです。

このように選手を支えている人たちがとても頑張っていて驚きました。

(取材・文) 近田 悠之介

ラグビー選手のキック

僕はロシアのラグビー選手との交流会で、ラグビー選手が練習でラグビーボールを蹴っていたのを見ました。ものすごく高くボールが飛んでいてとてもびっくりしました。でももっと凄いと思ったことがあります。それはあの楕円形のラグビーボールを、あんなに高く飛ばすには、かなりのコントロールが必要です。だからラグビー選手のキックのコントロールは凄いと思いました。

(取材・文) 中田 隼太郎

ワールド×ラグビー

9月28日(土) 武蔵野陸上競技場

元ラグビーオーストラリア代表チーム・クラシックワラビーズの特別来日に伴い、元日本代表選手によるクラシックジャパンが初結成され、親善試合が行われました。OB とも言っても皆さん元ラグビー選手。ジュニア特派員よりも一回りも二回りも大きな選手相手に緊張しつつもしっかりと取材をすることができました。

オーストラリアの選手には英語で取材を行い、貴重な体験となりました。



クラシック・ワラビーズから
もらったサイン入りユニフォーム



リフトアップ体験をする
石橋特派員



林選手から写真を撮ろうよ! と言ってもらいました。



しおりも渡しました!

クラシックワラビーズにインタビュー

クラシックワラビーズのジャスティン・ハリソン選手にインタビューしました。

Q1. 今日の試合はどうでしたか?

A1. すごくいいプレーができました。けがもなく終わったし、日本の選手たちと交流ができてよかったと思います。

Q2. クラシックワラビーズチームの良いところはどこだと思えますか?

A2. パスが得意なところだと思えます。

Q3. ラグビーを始めたきっかけは何ですか?

A3. ラグビーは19歳の時に始めました。ラグビーは楽しいし、友達といい人間関係を作りたいと思ったことがきっかけでした。

Q4. ラグビーの魅力はどんなところですか?

A4. 誰でもできることです。女性も男性も、背の高い人も低い人も、すべての人が自分の良さを活かせる場所でプレーできるところが魅力だと思います。

英語で取材を行う讀井編集長



ジャスティン・ハリソン選手



(取材・文) 北 みれい

ラグビーは、体の強い人のスポーツというイメージがあったので、誰でもできると聞いて親しみを感しました。私もいつかラグビーをプレーしてみたいと思いました。

林選手に独占インタビュー



今回のクラシックジャパンチームのまとめ役であり、ラグビーワールドカップ第1回大会のキャプテン、林敏之さんにお話を伺いました!

ワールド×ラグビーのイベントでは、ラグビー日本代表のキャプテンをした経験もあり、今回のイベントのために結成されたクラシックジャパンチームのリーダーを務めた林敏之さんに話を伺えました。今回の試合で林さんはロックの4番という、大きく強い人が果たすポジションについていました。ラグビーの試合でロックはボールを取り前に進む、というラインアウトでの競り合いで活躍するポジションです。試合終了後感想を聞くと、とても楽しかった、という思いが強く伝わりました。クラシックジャパンは参加人数が多くチームプレイを大切に考える林さんにとってとても面白い機会だったそうです。また、オーストラリアチームのことも、技術が高い、と絶賛しており試合の後半では特に、プレーのやりがいを感じたとも言っていました。また、プレーすることにおいて心がけたこととして、みんなで楽しくクリーンなプレーをすることだと言っていました。試合という競争の場でも、相手チームであるか同じチームであるかに関わらずリスペクトを忘れない姿勢は多くの人の鑑であり、今後大切にしたい考え方です。

(取材・文) 讀井 彩夏

Q1. 今日までにどんな練習をしましたか?

A1. あまり練習はしていないけど、楽しみです。

Q2. 自分が代表の時と、今の代表ではどんな違いがありますか?

A2. ラグビーの環境が変わりました。最近では、観客からもすごく人気です。

Q3. ラグビーの魅力で一番知ってほしい所はどこですか?

A3. 協力して、チームでボールをわたすところが魅力です。

林敏之選手は、優しく、大きい体が印象的でした。私は、林選手がラグビーを楽しもうとしている事に気が付きました。多分、ラグビーをものすごく愛しているからだだと思います。

(取材・文) 石橋 壮太



クラシックジャパンから
もらったサイン入りユニフォーム

クラシックジャパンとクラシックワラビーズの親善試合を見て

僕は、初めてラグビーの親善試合に行って、選手がタックルを何回も何回もしているのがすごいなと思いました。なぜかという、僕が今まで見てきた野球などのスポーツでは、選手同士がぶつかるのを避けるのが普通だったからです。

クラシックジャパンとクラシックワラビーズの親善試合は45歳以上と、45歳以下の2試合ありました。そしてその2試合共、クラシックジャパンは負けてしまいました。なぜクラシックジャパンは負けたのかというと、どちらの試合もクラシックワラビーズの勢が強かったからです。クラシックジャパンもトライをしたのですが、クラシックワラビーズより点を取れなくて、残念ながら負けました。

クラシックジャパンVSクラシックワラビーズ



(取材・文) 辻田 裕樹

高い！！ すごい！！

観客との交流コーナーでは小・中学生の人たちがラグビー体験コーナーや、リフト体験コーナーで楽しんでいました。僕もリフトを体験してみました。

リフトとは二人の人が、人を持ち上げて、持ち上げられている人が飛んでくるボールをキャッチするというものです。意外と高く、ちょっと怖かったです。いつもリフトの高さを味わっているラグビー選手たちは、東京スカイツリー（634 m）にのぼっても高いと感じないのかもしれない。

（取材・文）中田 隼太郎

中田特派員ナイスキャッチ！



コラム5

ジュニア特派員 中田 裕二

ラグビーの歴史について

ラグビーは今から約 200 年前、英国のラグビー校というパブリックスクール（私立中学）で生まれ、1871 年にほぼ現在の形になりました。ラグビー発祥については様々な説がありますが、中でもラグビー校に通っていたエリス少年が、フットボールの試合途中で、ボールを持ってプレーしたことが始まりと言われています。

また、ラグビー日本代表が結成されたのは 1930 年のカナダ遠征の時でした。W 杯では、第 7 回大会まで 1 度しか勝つことができませんでした。が、前回の第 8 回大会では 2 度の優勝を誇る世界ランキング 3 位の強豪南アフリカに大金星を上げ、今回の日本大会では、初のベスト 8 入りを果たし、強豪国の仲間入りをしました。



編集後記

2019 年 9 月 28 日武蔵野陸上競技場で、私はジュニア特派員取材のため、久しぶりにラグビーを観戦した。息子の高校時代、ポジションプロップ 1 番でラグビーに熱くなっていた事を思い出しながら、サポーターのお役を忘れるぐらい楽しく盛り上がりうれしくなる。会話をしたこともない人たちがばかりなのに仲間のような気にさせてくれるのがラグビーの良いところだ。それは一人ひとりを大切にするスポーツだからと考える。本当に嬉しい。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に、私たちむさしのジュニア特派員もラグビーチームのように、お互いを尊敬信頼し合いチームとなっているだろう。皆でトライを決める！

（ジュニア特派員サポーター：内藤 尚子）

【発行】 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会
（事務局）武蔵野市総合政策部企画調整課（オリンピック・パラリンピック担当）

〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28 TEL:0422-60-1970（直通）FAX:0422-51-5638